

非農地におけるクビアカツヤカミキリ緊急防除に関するQ & A

260807現在

No.	更新日	質問	回答
1-1	8/5	庭木のサクラ（ウメ他）で 成虫（もしくはフラス）をみかけたのですが	別紙様式に沿って聞き取り。発見日時、発見場所、発見時の状況をお知らせください。
1-2	8/5	生きたまま持ち帰ってもよいですか？	できません。クビアカツヤカミキリは「特定外来生物」に指定されており、生きたまま運搬したり飼育したりすることは法律で原則禁止されています。
1-3	8/5	虫の生態を教えてください（再掲）	成虫は樹皮に産卵し、ふ化した幼虫は樹幹内に入り込みます。幼虫は樹幹内部を摂食しながら約2年間過ごし、そのまま樹幹内で蛹になり、6月以降に成虫となって樹から這い出してきます。成虫はすぐに交尾し、樹皮に産卵します。他のカミキリムシと比べ産卵数が多く、1頭の雌の産卵数は平均350個、最大1,000個以上で繁殖力が高いです。また、飛翔力も高く、成虫は一度の飛翔でおよそ40～70m移動でき、被害エリアは1年で2～3km拡大するというデータもあります。
1-4	8/5	今回 県が薬剤補助をしていただけと聞いたのですが	庭木に対する補助制度の有無や内容は市町村によって異なります。詳細はお住まいの市町村へお問い合わせください。
1-5	8/5	なぜ緊急防除を行うのですか？	クビアカツヤカミキリは繁殖力が高く、定着すると被害が急速に拡大します。山梨県の基幹産業であるモモやスモモなどの果樹生産への影響が懸念されるため、初期段階で徹底した調査・防除を行い、まん延を防ぐ必要があります。
1-6	8/5	農薬散布を行う場合、健康への影響はありませんか？	防除に使用する薬剤は、法令に基づき使用方法や安全基準が定められています。周辺環境や住民の健康に十分配慮した上で実施します。
1-7	8/5	庭のサクラやウメなどでクビアカツヤカミキリを見つけた場合、市販のエアゾール殺虫剤で駆除してもよいですか？	はい。家庭の庭木等で成虫を発見した場合は、市販の家庭用エアゾール殺虫剤による駆除も有効です。捕獲したり、その場で殺虫したりした後、発見場所や状況を県へ連絡してください。ただし、生きたまま持ち運ぶことは、特定外来生物の規制により原則禁止されています。
1-8	8/5	庭木に散布したい。周辺に農地があるが大丈夫か？	農地への飛散が懸念されるため、周辺に農地がある場合は、風向きなどに注意して散布してください。
1-9	8/5	クビアカツヤカミキリとは何ですか？	クビアカツヤカミキリは、中国や韓国などに分布する特定外来生物です。幼虫が樹木の内部を食べて成長するため、サクラ、モモ、スモモ、ウメなどの樹木を枯らすおそれがあります。全国的に被害が拡大しており、山梨県でもR8年7月に初めて確認されました。
1-10	8/5	人やペットに危険はありますか？	クビアカツヤカミキリは人を積極的に攻撃する昆虫ではありません。しかし、成虫は強い顎を持っており、素手で触ると噛まれる場合があります。また、刺激すると独特の臭いを持つ液体を出すことがあります。発見した際は直接触れず、手袋などを着用して対応してください。
1-11	8/5	クビアカツヤカミキリかどうかを見分けるポイントがありますか？	主な特徴は次のとおりです。 ・体長約2～4cm ・全身が黒く光沢がある ・首（胸部）が赤い ・長い触角を持つ また、サクラやモモ、ウメなどの樹木の根元や幹の周辺に「フラス」と呼ばれる木くずと幼虫のフンが混ざったものが大量に出ている場合は、被害の可能性があります。
1-12	8/5	クビアカツヤカミキリが寄生した（フラスを出した）モモやスモモを食べても問題ありませんか？	問題ありません。クビアカツヤカミキリは樹木の内部を加害する昆虫であり、果実を食べることで人体に影響が出ることはありません。
1-13	8/5	クビアカツヤカミキリにはどのような農薬が使えますか？	クビアカツヤカミキリの防除には、成虫を駆除する薬剤と、木の中で育つ幼虫を駆除する薬剤があります。使用できる薬剤は樹の種類によって異なるため、県の農務事務所や林務事務所にお問い合わせください。
1-15	8/5	幼虫が樹木の中にいる場合も、市販の殺虫スプレーで駆除できますか？	幼虫は樹木内部に潜っているため、樹皮の外から市販スプレーを吹きかけるだけでは十分な効果が得られない場合があります。木くずやフンが混ざった「フラス」が出ている場合は、幼虫による被害が疑われますので、県へ相談してください。被害状況によっては薬剤注入や被害木の伐採等が必要となります。
1-16	8/5	クビアカツヤカミキリはバラ科植物に寄生すると聞きましたが、庭のバラにも寄生するのですか？	クビアカツヤカミキリはバラ科植物を主な寄主としますが、これまで国内外で大きな被害が確認されているのは主にサクラ、モモ、スモモ、ウメ、アンズ、オウトウ（サクランボ）などの樹木です。 一方で、観賞用のバラ（いわゆる園芸種のバラ）への被害事例は一般的ではなく、県が現在重点的に警戒している対象は、サクラやモモなどの木本性（樹木性）のバラ科植物です。このため、ご家庭のバラについて過度に心配する必要はありませんが、サクラやウメなどのバラ科樹木を所有している場合は、木くず状のフラスの排出や成虫の発生がないか定期的な確認をお願いします。
1-18	8/5	近所の空き家に放置されたウメの木があるが、どこに言えばいいですか？	地域の樹木の防除については、市町村にご相談ください。
1-19	8/5	神社などのサクラは誰が防除するのですか？	地域の樹木の防除については、市町村にご相談ください。